

Ⅲ 特定外来生物対策及び生物多様性の保全に向けた取組

1. キョンの防除等の取組

キョンは中国南東部および台湾に自然分布しているシカ科の小型草食獣で、国内では千葉県その他、東京都伊豆大島で野生化しています。成獣の体重は9～10kgほどであり、房総のニホンジカ（成獣の平均体重：オス 60kg、メス 40kg）と比べて著しく小さいのが特徴です。

千葉県における移入源は勝浦市にあった民間観光施設（13年閉園）と考えられており、移入時期は昭和30年代から60年代の間であると推定されています。

（1）生息状況

キョンは、23年時点では、鴨川市、勝浦市、市原市、君津市、富津市、いすみ市、大多喜町、御宿町及び鋸南町の9市町に分布しており、うちキョンの生息が恒常的に確認されているいすみ市、勝浦市、鴨川市、君津市、大多喜町、鋸南町、御宿町を集中防除区域に設定しています（図1）。



写真 キョン

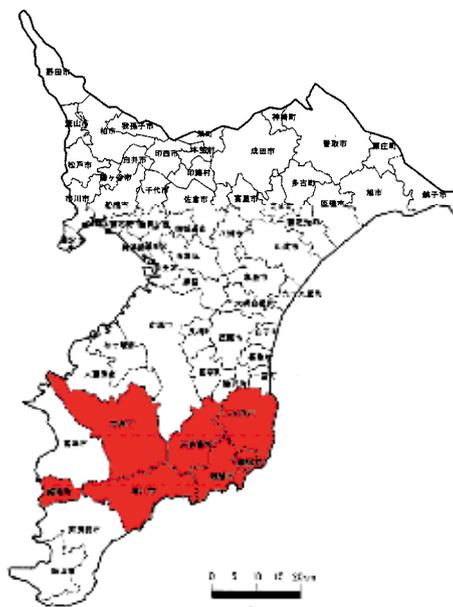


図1 県内市町村の地域区分

（集中防除区域：赤色、
その他の区域：白色）

（2）生態

ア 食性

房総では年間を通して樹木の葉を主に食し、秋にはシイ・カシ類の堅果も多く食しています。嗜好種としては常緑樹であるカクレミノが知られています。同地域に生息しているニホンジカと比較すると、キョンは常緑広葉や堅果を多く、笹類や枯葉、樹枝などは少なく採食していることがわかっており、ニホンジカよりも選択的に食しているといえます。

イ 繁殖

キョンのメスは早ければ生後半年前後で妊娠し、生後1年～1年2ヶ月程度で初出産し、1産1子です。千葉県においては、出産は年間を通して行われており、5～10月の出産が多い状況です。

また、妊娠期間は約210日であり、交尾の多くは10～3月に行われていると推定されます。

ウ 寿命と年齢構成

県で実施した個体モニタリング調査の結果、最高齢は、メスで6～7歳、オスで5～6歳、平均年齢は2歳ほどであり、4歳以下の個体がほとんどを占め、5歳以上の個体の割合は雌雄とも10%以下でした。

(3) 防除の実施体制

県では、20年度に千葉県キョン防除実施計画を策定し、21年度からは生息が恒常的に確認されている集中防除区域を中心に、市町村と連携して本格的にキョンの防除に取り組んでいます。

防除の実施に当たっては、県及び市町村が実施主体となり、地域住民、関係団体、研究機関等の協力を得ながら、防除を実施することとしています。

具体的には、県は、必要と認めた区域における集中的なわな・網等による捕獲、生息状況等のモニタリング、科学的データの蓄積、分析及び結果のフィードバック、防除実施計画の進捗管理等を実施しています。

また、集中防除区域の市町村は、銃・わな等による捕獲及び埋設・焼却等による処分個体の処理を実施しています。

(4) 県の捕獲事業

県内に生息するキョンの生息数の低減を図るとともに、キョンは外来種であることから生態学的な知見が不足していることや、国内における生息地域が千葉県と伊豆大島に限られていることから、効果的な捕獲方法が確立されていないため、効果的な捕獲方法の知見や、今後の防除に関する基礎資料を得ることを目的として事業を実施しています。

これまでの成果として、キョンはニホンジカと比べて小型であることから、くくりわなのワイヤーの径を通常より細くすると効率的に捕獲できることや、伊勢エビ漁の網を活用した捕獲方法（はり網）でオスのキョンを効率的に捕獲できることがわかっています。

このように県では、これらの方法によりキョンの防除を進めるとともに、より効率的で効果的な方法を確立するよう努めています。

2. 生物多様性の保全に向けた取組

(1) 生物多様性ちば企業ネットワーク

生物多様性とは、身近な動植物から人間までを含む、全ての生物・生命の営みとつながりを意味するものです。私たちは、直接的・間接的に生物多様性の恩恵を受けており、企業活動も例外ではありません。

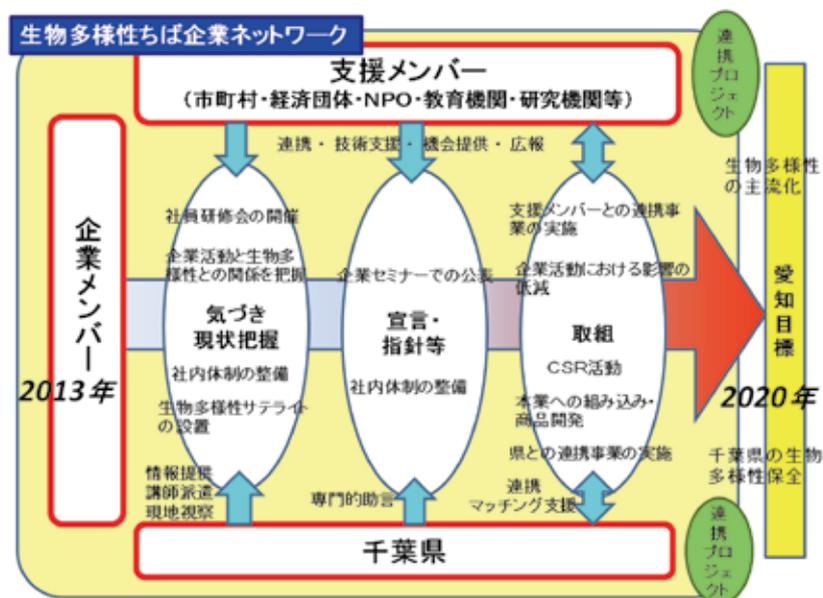
企業活動において生物多様性への配慮や、持続可能な利用が行われなければ、資源の枯渇を招いたり、社会的な責任を問われたりするなど、企業にとって大きなリスク要因となります。

また、現在の生物多様性に関する危機的な状況を改善するためには、企業においても多様な主体との連携・協働のもとに、生物多様性の保全に取り組むことが求められています。

このように、企業活動と生物多様性は密接に関係していますが、企業の多くは、生物多様性に関する情報の不足などから、関心があっても、生物多様性の保全の具体的取組を行えていないというのが現状です。

そこで、県では、企業における生物多様性に対する理解の促進や生物多様性の保全に向けた取組を広げていくこと、またその支援を図ることを目的として、25年4月1日、「生物多様性ちば企業ネットワーク」を創設しました。

県では、広く参加企業等を募るとともに、企業メンバーの取組の状況に応じ、生物多様性に関する各種の情報提供、社内研修会への講師派遣、参加企業を対象とした勉強会の開催等を行っています。



企業メンバー (13社、50音順、26年8月31日現在)

旭硝子(株)千葉工場、(株)安藤・間 技術本部、イオン(株)、出光興産(株)千葉製油所・千葉工場
キッコーマン(株)、(株)グランビスタ ホテル&リゾート鴨川シーワールド、(株)グリーン・ワイズ
清水建設(株)千葉支店、セイコーインスツル(株)、(株)千葉銀行、東日本電信電話(株) 千葉事業部
(株)フジクラ佐倉事業所、リンテック(株)

支援メンバー (5団体、50音順、26年8月31日現在)

一般社団法人 CEPA ジャパン、NPO 法人ちば里山センター、東京都市大学 環境学部 田中章研究室
公益財団法人日本自然保護協会、公益財団法人日本生態系協会

(2) 生命 (いのち) のにぎわい調査団

千葉県における県民参加の生物モニタリング組織として 20 年 7 月に発足した「生命 (いのち) のにぎわい調査団」は、6 年間で団員数が 947 名となり、調査団員からの報告件数は 33,000 件を超えました (26 年 6 月末)。

ア 生物モニタリング

生物多様性の現状と変化を把握するため、県では「生命のにぎわい調査団員」を募集し、身近な生き物の中から選ばれた、生態系の指標となる生物 57 種を対象にモニタリングを実施しています。在来種のうち減少が心配される 25 種と、他地域や海外から県内に入ってきた外来種等 14 種については「発見報告」、季節の変化を感じさせる生物 (鳥やセミの初鳴き、飛来、産卵、植物の開花) 18 種については「季節報告」として、メール、ファックス等で報告されています。また、これら 57 種以外についても、数多くの報告が寄せられています。

イ 報告の活用

団員からの調査報告は、毎週 1 回集計して調査団ウェブサイトにおいて更新し、生き物ごとの発見マップとして公開しています。地理情報システム (GIS) により県内の開発計画等審査への情報提供にも活用しています。調査団ウェブサイトでは、生物多様性の関連情報と団員向けの連絡情報を随時掲載し、団員から質問があった場合は、メール等により回答して双方向の情報交換を行っています。

調査団ウェブサイト <http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>

報告によるデータ集積の一例として、例えばアマサギのデータを見ると、この数年で報告が激減しており、発見地点は主に畑地・水田・農地であることがわかります (図 2～3)。

ウ その他の活動

調査団員の技術向上のため、毎年 2 回の現地研修会および、年度末に生命のにぎわい調査フォーラムを開催しています。

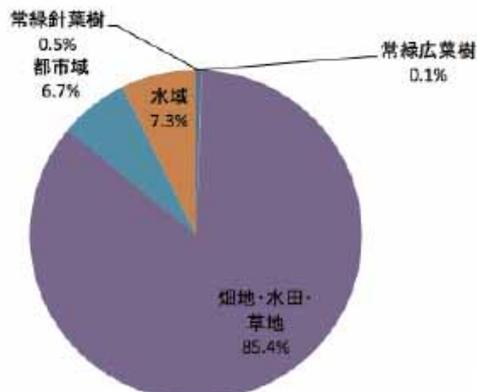
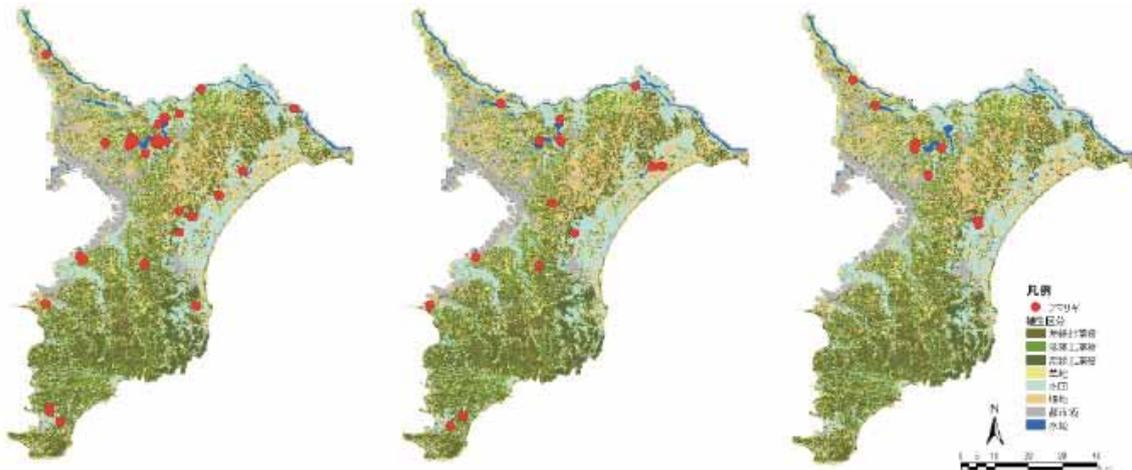


図 2 アマサギ発見報告 (左から):
平成 23 年 (43 件)
平成 24 年 (18 件)
平成 25 年 (9 件)

図 3 アマサギ発見地点 (半径 10m) の土地利用

(3) 希少生物の保護

ア 千葉県の希少生物

千葉県では、県内の野生生物の生息・生育状況を把握して、そのうち絶滅のおそれのある生物種について、千葉県版のレッドデータブック「千葉県の保護上重要な野生生物」として取りまとめて公表し、定期的に改訂しています。レッドデータブックは、生物多様性保全施策の基礎資料や自然環境の指標として、教育や普及啓発の資料として、また開発事業や生物資源の管理の検討に際してなど、幅広く活用されています。

イ 希少生物保護の取組

本県に分布する希少生物のうち、ミヤコタナゴ、シャープゲンゴロウモドキ、ヒメコマツの3種は、特に絶滅のおそれが高く、千葉県を代表する希少生物として、県ではその保護に取り組んでいます。以下にそれぞれの種について、レッドデータブックにおけるランクや法指定の状況、生息・生育状況、保全対策等を示します。

ミヤコタナゴ (コイ科)

- ・絶滅危惧 IA 類 (国)、最重要保護生物 (千葉県)
- ・天然記念物 (文化財保護法)、国内希少野生動植物種 (種の保存法)
- ・かつて、関東平野に広く分布していましたが、現在、野生個体は千葉県と栃木県の一部に生息するのみ。
- ・国・県・地元市町村で連携して、生息環境の整備、系統保存、調査研究等を行っています。



シャープゲンゴロウモドキ (ゲンゴロウ科)

- ・絶滅危惧 IA 類 (国)、最重要保護生物 (千葉県)
- ・国内希少野生動植物種 (種の保存法)
- ・形態等から関東型 (関東地方に分布) と関西型 (北陸～関西地方に分布) に分けられるが、関東型は千葉県にのみ残存。
- ・県及び関係機関からなるシャープゲンゴロウモドキ保全協議会において、生息環境の整備、個体群動態の把握、系統保存等を行っています。



ヒメコマツ (マツ科)

- ・最重要保護生物 (千葉県)
- ・本来海拔 1000m 以上の山地を中心に分布しますが、千葉県では最終氷期の遺存種として、300m 前後の低地に分布します。近年、多くの個体が枯死し、現在、約 80 個体しか生存していません。
- ・県及び関係機関からなるヒメコマツ保全協議会において、着果状況の把握、マツノザイセンチュウによる枯死防止のための薬剤の樹幹注入、系統保存、苗木の試験植栽、種子の保存技術の開発等を行っています。

